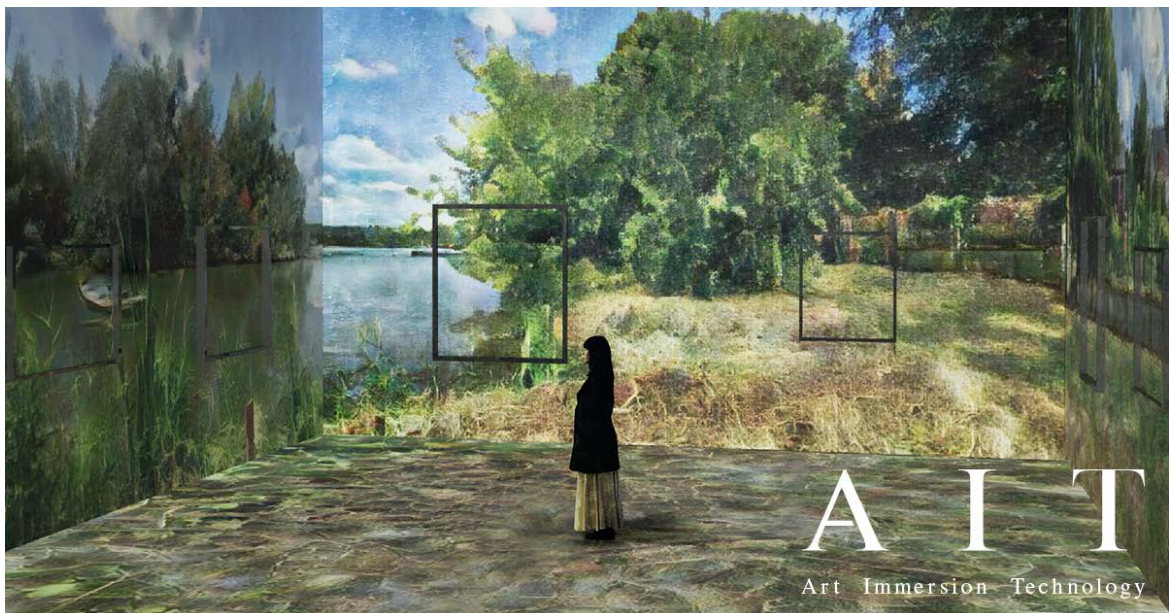


日経とカヤック、「画家が見た風景を再現する」VR 技術を開発

9月26日から開催の「ピエール・ボナール展」で展示

株式会社日本経済新聞社(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岡田直敏)と株式会社カヤック(本社：神奈川県鎌倉市、代表取締役 CEO：柳澤大輔)は共同で、作品を描く上で画家が見ていた世界を仮想現実(VR)で再現する技術「Art Immersion Technology」(以下、AIT)を開発しました。人工知能を使い風景を画家のタッチで再構成し、展示室全体に投影します。画家の視点から「描かれなかった風景」と作品を同時に見ることで画家の思考を追体験し、作品に対する理解を深めることができます。

2018年9月26日(水)より国立新美術館(東京・六本木)で開催される「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」にて展示・公開します。作品6点について、ボナールが見ていた風景を再現した映像をプロジェクションマッピングにより360度映し出します。今後は様々な展示会での利用も想定しています。



※「AIT」の展示イメージ。作家が見たであろう世界が、鑑賞者を取り囲みます

AITは日経が2017年に設置した先端技術の開発組織「日経イノベーション・ラボ」とカヤックが共同で開発しました。今回、日経イノベーション・ラボは国立新美術館の協力を得て、ボナールが実際に暮らした北フランスの家、南フランスのアトリエ、散歩した道、ニースの岬などを訪れ、絵が描かれた場所を探し出し、撮影しました。その上で、VRなどを利用した視覚表現で実績があるカヤックの協力を得て、描かれなかった風景の実写映像をボナールのタッチで描いた絵画の映像

に変換しました。

今後、AIT は 3D スキャナや 3D プリンタなどを用いて、「絵画の中にあるモノ」の再現、スマートフォンとの連動などを検討しています。絵画展示を拡張する新たな展示手法として、日経主催の美術展をはじめ様々な展示での利用を想定しています。

詳細はこちら

<http://bonnard2018.exhn.jp/ait/>

「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」について

オルセー美術館の豊富なコレクションを中心に、国内外のコレクションの協力を仰ぎ、130 点超の作品で構成される大規模な回顧展です。画家ピエール・ボナール（1867 - 1947 年）は、目にした光景の印象を絵画化することに取り組み、鮮烈な色彩の絵画を多数生み出しました。展覧会の会期は 9 月 26 日（水）～12 月 17 日（月）で、東京・六本木にある国立新美術館で開催します。

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は 1876 年以来、140 年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。主力媒体である「日本経済新聞」の発行部数は現在約 242 万部で、約 1500 人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。2010 年 3 月に創刊した「日本経済新聞 電子版」の有料会員数は約 60 万人で、有料、無料を合わせた会員数は 400 万人を上回っています。日経イノベーション・ラボは、先端的な IT（情報技術）に関する調査・研究・開発を行う組織で、2017 年に設置されました。日経グループが保有する経済・マーケットに関するデータと、最新の科学技術に関する調査をもとに、人工知能（機械学習・自然言語処理）や VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、あらゆるモノがネットにつながる IoT など、様々な分野で 研究開発活動を行なっています。

株式会社カヤックについて

株式会社カヤックは、古都鎌倉を拠点とし「つくる人を増やす」を経営理念に掲げるクリエイター集団です。固定概念に囚われない発想力・企画力、形にしていく技術力を強みとして、ゲーム・広告・Web サービス・R&D など、話題になる日本的面白コンテンツを次々とつくり続けています。

本件に対する問い合わせ先

日本経済新聞社 広報室 TEL:(03)3270-0251 (代表) E-mail : pr@nex.nikkei.co.jp

カヤック 広報 E-mail : promo@kayac.com